

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援あじさい		
○保護者評価実施期間	令和7年 3月 1日		～ 令和7年 3月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数) 16
○従業者評価実施期間	令和7年 3月 1日		～ 令和7年 3月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 16日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	家庭支援	IT化により、相談事があった時に随時相談をしてもらう体制を作っている。 支援に関わるスタッフに加え、相談内容によっては児発管と一緒に対応し、専門性の高い支援を提供している。	研修を実施することにより、スタッフの質を向上させる。
2	関係機関との連携	学校や併用先の事業所、公的機関と連携する機会を多く設けている。 検討すべき事案が発生した場合は、相談支援事業所に連携を依頼し、広い視野から支援につなげている。	
3	事業所の広さ	複数の部屋を活用し、子どもの状態や目的に合わせて環境を整えている。	

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	スタッフの退職	やりがいを感じられる環境が不足している	
2	地域との交流	地域の公園は、他の放デイさんと利用が重複しやすく、地域の方からすると占領されているという感覚を持たれる傾向があり、交流に抵抗を持たれてしまう。	事業所内での交流を検討。
3	スタッフのスキル	支援時間を優先する事により、外部の貴重な研修を受ける機会を確保できない。	リモート研修の導入。